

平成22年西東京市教育委員会第1回臨時会会議録

- 1 日 時 平成22年2月12日(金)
開会 午後1時05分 閉会 午後1時48分
- 2 場 所 防災センター6階 講座室2
- 3 付議事件 別紙議事日程のとおり
- 4 出席委員 委 員 長 竹 尾 格
委員長職務代理者 沼 本 禧 一
委 員 宮 田 清 蔵
委 員 角 田 富美子
委 員 森 本 寛 子
教 育 長 野 崎 芳 昭
- 6 出席職員 教 育 部 長 高 根 和 孝
教育部特命担当部長 二 谷 保 夫
教育部副参与兼教育企画課長 櫻 井 勉
教育部副参与兼教育指導課長 前 島 正 明
教育相談担当課長 南 里 由美子
統 括 指 導 主 事 石 井 卓 之
教育部参与兼社会教育課長 波 方 幹 徳
ス ポ ー ツ 振 興 課 長 飯 島 伸 一
公 民 館 長 相 原 昇
教育部主幹(公民館) 山 本 茂
教育部主幹(図書館) 奈 良 登喜江
- 6 事務局 教育企画課企画調整係長 清 水 達 美
教育企画課企画調整係 相 澤 潤 子
- 7 傍聴人 0人

平成22年西東京市教育委員会第1回臨時会議事日程

日 時 平成22年2月12日（金） 午後1時00分から

会 場 防災センター6階 講座室2

- 第1 会議録署名委員の指名
- 第2 議案第15号 平成22年度西東京市立小・中学校の校長及び副校長の人事の内
申について
- 第3 協議事項 学力調査について
- 第4 そ の 他

西東京市教育委員会会議録

平成 22 年第 1 回臨時会
(2 月 12 日)

午後 1 時 0 5 分 開 会

議事の経過

竹尾委員長 ただいまから平成 22 年西東京市教育委員会第 1 回臨時会を開会いたします。

これより直ちに本日の会議を開きます。

日程第 1 会議録署名委員の指名を行います。本日は宮田委員をお願いいたします。

竹尾委員長 日程第 3 協議事項 学力調査について、を議題といたします。教育長から協議の趣旨についての説明を求めます。

野崎教育長 協議事項 学力調査について、御説明申し上げます。

文部科学省がこれまで国・公・私立学校^{しっかい}悉皆で実施していました全国学力・学習状況調査が平成 22 年度より学校を抽出して調査することになります。こうした状況を踏まえ、今後、西東京市立小・中学校における学力調査について協議していただくものでございます。

詳細につきましては事務局より説明いたさせます。

前島教育指導課長 それでは、教育長に補足いたしまして、協議事項であります学力調査について御説明いたします。

まず、全国学力・学習状況調査、これは文部科学省が平成 19 年度より、今年度も含めて過去 3 回、国・公・私立学校の小学校 6 年生、中学校 3 年生で実施してきたものでございます。対象教科は国語・算数、中学校は国語・数学ということで、「知識」を中心とした問題と、「活用」を中心とした問題を実施してきたところでございます。

今、教育長の説明にもございましたが、22 年度より抽出で調査をするということになって、全校調査となりません。これを受けまして、全国学力・学習状況調査について、集計等を業者委託できないものか勘案したところでございますが、各学校で採点等が任されることもありまして、この採点は、今回の全国学力・学習状況調査は、問題は記述式回答も多く、正答と判断する仕方も多様であって、抽出学級とで採点者による採点基準の差異が生じることも十分考えられますので、全国平均等との正確な比較・分析が必ずしもできないということがございます。

また、この全国学力・学習状況調査につきましては、各学校で授業改善推進プランの見直しや改善を図るための一つのデータとして活用してきたところでございます。しかし、授業改善推進プランにつきましては、全国学力調査の結果だけではなく、改善策を検討しているので、実際問題としては、定期テストや小テスト、市販のテスト等の結果に基づいて分析して、子どもたちの実態に即した見直しや改善を図っているところでございます。

また、文部科学省以外にも、東京都では、資料の 2 番にございます児童・生徒の学力向上を図るための調査を実施しているところでございます。来年度につきましては、「読み解く力に関する調査（仮称）」を小学校 5 年生と中学校 2 年生、これは全校で実施されるところでございます。また、それとあわせて、「基礎的・基本的な事項に関する調査」、これは小学校 4 年生と中学校 1 年生で実施をするところです。これは抽出調査をするということですが、希望するところについては、ある一定数のところは、希望の学校に問題及び集計をしていただくような予定になっているところでございます。

これ以外に、業者による学力テストについても検討してまいりました。裏面になりますが、国や都以外にも児童・生徒や学校の学力を測定する方法としては、業者によるテストがあります。しかし、この場合、ある程度費用がかかるということにもなりますし、全国的に標準化されたものではございませんので、これについても今後検討が必要であるというふうな結論に至ったところでございます。

国の調査、都の調査、業者による調査、この三つについて検討してまいりましたが、22年度につきましては、3点、今後考えているところでございます。1点目は、東京都が行う児童・生徒の学力向上を図るための調査のうち、「読み解く力に関する調査（仮称）」は全小・中学校で実施することになっておりますので、これをまず、全国学力・学習状況調査の代わりとしていくと。また、基礎的・基本的な事項に関する調査、これも都が行うものですが、これについては、市立小・中学校全校で実施を希望して、可能な限り全国学力・学習状況調査の代替としてまいりたいというふうに考えております。

また、全国学力・学習状況調査の結果の集計等の業務委託につきましては、先ほどお話ししたとおり、費用対効果や時間的な制約等を考えると、必ずしも実施する必要はないと考えているところから、今回、提供される問題につきましては、各学校の判断で学力調査と同様に実施をして、授業改善の基礎的なデータの一助にしたり、あるいは児童・生徒の学習の振り返りに活用してまいりたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

竹尾委員長 説明が終わりました。これより委員の皆様方の協議に入ります。必要があれば、事務局からも説明をいただきながら進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。きたんのない御意見、御議論をお願いしたいと思います。

沼本委員 私の考えとしては、4の学力調査についての見解に書いてありますように、都のほうでやっていただくものというふうなことで、このとおり行っていけばいいのではないかなと思います。

竹尾委員長 業者は頼まないということですね。

沼本委員 ええ、そうですね。

角田委員 国のほうはやらないということですか。

前島教育指導課長 先ほど御説明いたしました、抽出調査で、実際にやる学校は小学校全体の25%、中学校は44%を予定しているということでございますが、全校では実施しないと。あと、希望する学校については問題用紙を配付していただいて、各学校で対応していただくということでございます。

角田委員 希望する学校が多いとか、全くないとかということは考えられないんですか。

前島教育指導課長 希望する学校は実際にございます。抽出した学校以外に数校希望しておりますし、また、問題につきましては、国で全部予算配当をしているということなので、配られないということはありません。

宮田委員 希望している学校と希望していない学校では、どういうことを考えて希望し、どういうことを考えて希望しないのでしょうか。

前島教育指導課長 希望している学校につきましては、そのデータを自校で採点したり、あ

るいは子どもたちに採点を任せて振り返りに使うということで希望していると思いますが、先ほどお話をしたように、全国との比較ということが全国学力・学習状況調査、^{しっかい}悉皆調査の大きなメリットだったんですけれども、それが確保できないということがありますし、また、東京都でも同様の調査を行うということもありまして、時間的な制約とかがございますので、それを考えて、都のほうの調査一本でやっていこうというふうに考えている学校があるということでございます。

宮田委員 質問なんですが、どうして東京都は国とは別途にやるのでしょうか。

前島教育指導課長 今年度中心となるのは「読み解く力に関する調査」なんですけれども、これ以外にも、今まで東京の独特の視点で調査を行ってきたところでございます。ただ、今回、全国学力・学習状況調査が抽出になったということで、また別の意味合いが出てくるということもございますが、基本としては、都は独特のスタンス 実施学年も違いますので、国と都が整合性をとりながら実施してきたところだというふうに考えております。

沼本委員 質問なんですけれども、国のほうで希望はしないんですが、自分の学校で、例えば去年のある部分がうまくいっていなかったと、ですから、それに似たようなもの、この部分だけは学校でちょっとやってみようかなと、そういうことは当然できるわけですね。

前島教育指導課長 学校につきましては、問題用紙をどのように活用するかは全部任されておりますし、また、採点基準等につきましても、採点とか集計はしていただけないんですが、採点基準については示されるということもございますので、一部を活用するというのも十分考えられると思います。

沼本委員 そういうふうにして、先生方が自分で採点をすることによって自校の問題点がどこにあるかというのがわかるので、そういう面で是非活用していただきたいと思います。基本的には、先ほども申しましたように、東京都のほうの問題を使って学力の分析とか基礎的な問題についての分析を行っていただければいいのではないかと思います。

森本委員 質問ですけれども、東京都の基礎的・基本的な事項に関する調査については、市として、一応希望としては全市的にとりあえず出しておくという解釈でよろしいんですか。それで外れる場合もあるかもしれないけれども、とりあえず市の方針としては全校一斉に出すということでもよろしいのでしょうか。

前島教育指導課長 そのとおりでございます。学校の希望をとらず、市の方針として全校で希望して、可能な限り都にお願いをしてまいりたいというふうに考えております。

宮田委員 3のところ、国の場合ですと1人当たり2,000円、市がかかるといことなんです。それに対して、一方、東京都では340円ということ、お金も違うということに関しては、やるやらないには関係なく考えておられるんですか。

前島教育指導課長 340円というのは、業者に学力テストをお願いしたときに1教科当たり340円かかるということで、同じように6年と3年をやるとしたら大体200万程度の予算がかかるということでございます。全国学力・学習状況調査につきましては、採点業務だけを委託すると1人当たり2,000円かかるということでございます。これは先ほど言いましたように、記述式が多い問題のつくり方なので、かなり資質の高い採点者でないと難しいという基本設定がございます。そういったところで費用がかかるということござい

す。ただ、東京都の調査につきましては無償でやっていただけるということでございます。

宮田委員 記述の場合には採点が大変というか、生徒一人一人の個性とか考えをちゃんと採点に反映させるから大変だと。東京都はそういうことはせずに、マルバツか何か知りませんが、択一だとか、そういうことなんでしょうか。もしそれで東京都をとって国をやらないとすると、総合的な考え方がちゃんと把握できないということにならないのでしょうか。

前島教育指導課長 東京都の問題も、基礎的・基本的な内容、あるいは思考力を試すような問題でございますので、大変工夫された問題です。東京都はその採点業務を含めて予算化していただいているということで、先ほど申し上げたように、当初はスタンスが違ったんですけども、今回国がやめたということで、その荷を背負うということで、基礎的・基本的な事項に関する調査については標準化された問題だというふうに考えているところでございます。

竹尾委員長 国の調査というのはなくなってしまったんですか。

前島教育指導課長 国の調査につきましては、先ほど言いましたように、やるんですが、抽出校です。だから、全部はやらないということでございます。

竹尾委員長 それはやるのね。

前島教育指導課長 はい、やります。来年度もやるんですが、全校で今までやっていたんですが、抽出校のみの実施で、そこで採点までやっていただくということです。

宮田委員 だれが抽出して、抽出されると2,000円払うんですか。

前島教育指導課長 それは文部科学省のほうで、抽出で指定された学校がでございます。それについて実施をして、採点業務まで文部科学省の予算でやっていくということです。それを市として、採点業務をやっていない未抽出校が実施をした場合に、1人2,000円かかると。だから、トータルで言うと500万近くの予算をとらなければいけないということでございます。

竹尾委員長 それでとるつもりですか。

前島教育指導課長 先ほど言いましたように、抽出校のみで、あとは問題をもらうものについては各学校で採点をしたり、あるいは子どもたちに採点基準を見せながら、指導しながら採点をさせたりして振り返りに使うという活用を考えているところでございます。

宮田委員 その場合はただと。問題配付だけだと無料ということでしょうか。

前島教育指導課長 はい、そのとおりでございます。

竹尾委員長 国は、学力の傾向を把握するということであるならば、何も全校やることはないんですよ。抽出で十分できるのではないかと思うけれども、市としては、市内の19の小学校 まあ、中学校もあるんでしょうが を全部知りたかったと。だったら、全部をやったほうがわかるんでしょうね。まあ、お金のかかることですから、よく検討して……。

ほかに御議論はございますか。

角田委員 同じような調査を国と東京都がやるというのはどういうメリットがあるんですか。学年が違いますよね、この辺がよくわからない……。

前島教育指導課長 同質の問題ではないんですが、基礎的・基本的な事項、これも必ずしも全国学力・学習状況調査とは整合性はないんですが、実施学年が特定の学年になってしまう

とその時間が制約されてしまうということで、国に合わせて東京都が時間をずらしているということでございます。同様に、東京都でやる調査につきましても、学年をずらしているのはそういったところでございます。

竹尾委員長 あまのじゃくなんだ、都が。国の言うことは聞きたくないという傾向がありますから。そういうことを言うてはいけないかもしれませんが。

宮田委員 いやいや、もしそうだとしたら、一本にしたほうがトータルのお金は減りますよね。ある種の二度手間になっているわけなので、行政仕分けから言えば、何か……

竹尾委員長 私もそう思いますよ。東京都らしいなとは思いますが。こんなことを言うてはいけないけれども、よくいろいろ検討してやっていただくということで、具体的にはもう決まっているということですね。全国調査をやる学校があって、残りのところには問題を配付すると。全部問題を配付するんですね。

前島教育指導課長 そこは希望した学校です。

竹尾委員長 ああ、そうですか。学校が希望しなければ……。

宮田委員 では、抽出された学校はもうわかっているんですか。

前島教育指導課長 実際にはわかっていますが、実施をされていくまでは公表できないということでございますので、実際には来年度実施をした後にわかりますが、今回その学校個別の学力の結果とか区市町村単位の結果については出されない予定でございます。都道府県単位レベルで全国的な学力がどうなっているかという調査の趣旨で言えば、その段階のところ公表されることが予想されます。

竹尾委員長 この前は学校別に出したようですからね。わかりました。

今御質問等がありました。御意見でも結構ですが、ほかにございせんか。

宮田委員 二重にやらなくても、将来的には国全体で一個でよろしいのではないかという気がするんですよ。試験ばかりやってもしょうがないですし、授業時間確保という面からも、将来的には一つで統一されたらどうでしょうかと、私は個人的にそう思います。

竹尾委員長 私もそう思いますね。賛成です。教育の専門家の人たちはいろいろな御意見があってやるんだろうとは思いますが。

ほかに御意見はございせんか。 それでは、御質問、御意見も終わったようでございますので、学力調査につきましても協議の結果をお諮りしたいと思います。

平成22年度については、資料4の学力調査についての見解に基づき実施していくことに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

全員賛成。よって、学力調査については、資料4の学力調査についての見解に基づき実施していくという結論に達しました。

竹尾委員長 日程第4 その他、を議題といたします。教育委員会全般について、何か御意見、御質問等がございましたらお願いいたします。 質疑を終結します。

以上でその他、を終わりいたします。

竹尾委員長 次に、議案第15号は、先ほどお諮りしましたとおり、人事に関する案件であることから、西東京市教育委員会会議規則第13条第1項ただし書きの規定に基づきまして、会議を秘密会とさせていただきます。

恐れ入りますが、関係者以外の方の御退席をお願いいたします。

それでは、暫時休憩といたします。

午後 1 時 2 8 分 休 憩

午後 1 時 4 8 分 再 開

竹尾委員長 休憩を閉じまして、会議を再開いたします。

以上をもちまして平成22年西東京市教育委員会第1回臨時会を閉会いたします。どうもありがとうございました。

午後 1 時 4 8 分 閉 会

西東京市教育委員会会議規則第29条の規定によりここに署名する。

西東京市教育委員会委員長

署 名 委 員